

はばたき

2013. No. 75

仲間がいるということ



中原学園長がいつも旅立ちの色紙に書く言葉は「絆」です。生まれた場所も育った環境も違う人達が、誰が意図したわけでもないのにこの地に集い、利用者も職員も関係なく、日々助け合い、支え合い、励まし合いながら一つの目標に向かって進んでいます。

今号は、そんな様々な絆で結ばれた法人大久保学園の仲間達の特集です。

齊藤 航二



大切な存在

大久保学園 支援課係長

山田 聡子

「仲間との信頼関係を築くには何が大事？」

「あなたにとって仲間とは何ですか？」

「仲間がいるということ」

狎れあわないこと。職場では厳しいことを言われたり、逆に言わなければいけない場面が日々あると思います。これはとても大事な作業で人の生活や命を預かる仕事をする私達は仲良しだけでは仕事ができ立ちません。お互い良いことも悪いことも指摘しあえる関係づくりが必要だと思います。その中で相手のことを知り、自分のことを知ってもらいながら、信頼関係は築かれていくのだと思います。

そして、相手を思いやること。優しさの感じ方や表現の仕方には人それぞれ違いがあると思いますが、その人の為に何かをしたいと行動したり、見守ったり、相手への思いやりは必要不可欠ではないでしょうか。

この仕事を始めて20年が過ぎ、改めて振り返ると「仲間」のおかげでこの仕事を続けてこられたということ。悩んでいる時に適切なアドバイスをくれて一喝してくれた先輩方の存在はいつまでも大きいものがあります。一つのことをやり遂げた時に一緒に喜びを分かち合えた同僚がいたからこそ、仕事のやりがいを知ることができました。困った時に悩みを打ち明けてくれた後輩たちへのアドバイスは、先輩方からの受け売りかもしれませんが。職場を離れた「仲間」達とは今でも長い付き合いを続けながら繋がっています。そのどれが欠けても今の私はいないはずで「大切な存在」です。

それでは、利用者さんにとっての「仲間」はどうでしょうか？一緒に汗水流して仕事に取り組むうちに仲間意識が芽生えていき、寝起きを共にしている、自然と連帯感を作り上げていくのかもしれませんが。目が合うと喧嘩をしてしまうのに姿が見えないと心配をしていたり、面倒見の良い人がいたり、夕方ベンチで話し込んでいたり、いつも隣り同士で座っていたり……色々な形で「仲間」を感じる姿を目にします。毎日のように繰り返されるトラブルや喧嘩も「仲間」との大切な関わりです。お互いが必要としていることが「仲間」に繋がるのだと思います。

家族ではない人達と生活を共にすることを皆は一体どう感じているのかと考えることがあります。楽しいのか、うるさいのか、安心するのか、私たちには計り知れない感情があるに違いありません。だからこそ、私たちの声や表情一つでこの人たちの

生活を変えてしまう可能性があることを知っていなければ、この仕事はできないと常日頃から思っています。

私たちに向けられる笑顔や言葉、日々の関わりの中で利用者さんから人間関係の作り方や仲間を大切にする気持ち、そして「大久保学園の中にいる私たちは皆『仲間』なんだ」ということを仕事を通して教わる機会のなんと多かったことか。私も仲間の一員になれているのならこんなに嬉しいことはありません。

結局のところ、大久保学園の生活をどう感じているかの答えは利用者さんの笑顔になるのかもしれませんが。その笑顔の為に私たちは何をすればよいのかを考えて、関わり続けていけば「仲間」は守られていくのかもしれません。

たくさんの失敗を繰り返しながらも「私は必要とされている」と感じることが多くありました。それがこの仕事を続けることのできた理由なのかもしれません。それは「仲間」のおかげなのです。

仲間がいるということ

ふなばし工房 武藤 広幸



仲間と聞く

と「和気あいあい」というイメージがあると思います。もちろん仲が

良く楽しく過ごせる事はとても素晴らしい事です。作業活動を中心に行っている大久保学園ではそれだけではないのです！それぞれがお互いを良きライバルとして意識しており、「自分はこの仕事なら誰にも負けない！」「頑張つて仕事を終わらせよう！」という気持ちで伝わってきて作業に対する責任感が伺えます。ただ時間つぶしの活動をしていると活気がなくなってしまう。ふなばし工房の利用者が毎日元気に過ごせているのは、責任感や達成感をもって日々の活動に取り組んでいるからだと思います。お互いを高め合い、助け合い、時にはふざけ合い。ふなばし工房の利用者の方々にとって仲間とは、このような存在なのではないかと思っています。

光風みどり園 京増 隆太



どんなに辛い

時や逃げ出した
い時、泣きたい
時に、何でも話
せる仲間が職場
にいるのは、素

晴らしい事です。仕事でも同じ様に、今までは話してくれなかった利用者も、自分にならと悩みを話してくれる方が増えた事が、とても嬉しかったです。長い時間をかけて、一人ひとりのコミュニケーションを大切にしていける事で、心の扉を開いてくれるのだと思います。しかし、初対面では誰でも緊張して、うまく話せないと思います。心を開いて何でも話せる人も多くはないと思います。利用者への支援も同じです。小さなコミュニケーションから、少しずつ積み重ねる事で、相手は自分に信頼感を持ち、心を開いてくれるのだと思います。それは、どんな支援にも繋がります。人対人としても良い人間関係が築けるのだと感じます。また、利用者との信頼感から仕事への動活力へも繋がり、日々の作業に影響しているのだと思います。

大久保学園 内山 泰宏



利用者にと

て仲間とはど
んな存在を指
すのか。そも
そも「仲間」と
いう意識があ

るのだろうか。それは利用者にか分らない事だが、私は両者いると思っている。また、仲間意識を持つている人でも、その対象は利用者だったり、職員であったり、もしかしたら家族だったりするのかも知れない。そんな定義には捉われずに、自分の要望・希望を聞いてくれ、楽しく話が出来たり、一緒に居ると安心したりするような人を仲間として認識しているようにも感じている。十人十色という言葉があるように、人の数だけ考え方や感じ方は違う。一人でも多くの利用者の「仲間」となれるように、また、仲間の枠組みを広げられるように日々の支援に誠心誠意尽くしたいと思っています。

大久保学園 山田 瞳



利用者にと

て仲間とは、
「一緒にいる
こと」なので
はないかと思
います。

同室者の方と楽しくお話をしながらお菓子を食べている姿は、とても生き生きとしています。また、一緒にテレビを観て、ニコニコ笑っている姿を見ると、共感出来る所もあるように思います。自分のお菓子を他の人にあげたり、他の人の布団を敷いてあげたりと、思いやりも見られます。居室で一緒にテレビを観る、お菓子を食べる、カラオケをする等、誰かと一緒にいる事で、喜びや楽しさを感じる事が出来るのではないかと思います。嬉しかったり、楽しかったり、共感出来たり、時にはケンカもしたりと、そんな些細な事が利用者にとっては「仲間」と感じる事なのではないかと思っています。



動物とのふれあい広場での事です。私が一緒に行動していた利用者さんが羊のお腹を撫で始め一瞬微笑みにはほほえみだ様に見えました。その瞬間、私達はこの笑顔の為にこの仕事をしているのだと改めて感じ、利用者さんの笑顔があるからまた明日からの活力になり仕事を頑張れる。そんな想いを想い出させてくれた一日外出でした。(永坂)

動物園外出



光風みどり園納涼祭



船橋市光風みどり園では、8月31日、夏の終わりに盛大に納涼祭を行いました。提灯のやわらかい光のもと、利用者さん、保護者や関係者の方々、職員も一緒になって大いに楽しみました。特に利用者さんのカラオケは、その目一杯楽しんでいる姿に皆さんが思わず笑顔になって手拍子を送ってしまうほどでした。(京増)

ふなばし工房一泊旅行



ふなばし工房は9月8～9日、29～30日の二回に分かれて一泊二日で伊豆へ旅行に行ってきました。雨が心配されていましたが降られる事もなく観光することができました。夜の宴会では、恒例のカラオケ大会が行われ、皆さん大いに楽しんでいました。旅行から帰ってきた次の日、「バスから観覧車が見えたね。」「温泉気持ち良かったね。」など、皆さん笑顔で旅行についての話をしてくれました。この笑顔のために今後の旅行もより良いものにしていこうと思えた瞬間でした。(佐藤)

ふなばし工房 佐藤 夏美

7月11、12日に行われた関東地区知的障害者福祉関係職員研修山梨県大会に参加させていただきました。

私が参加した分科会は、「魅力ある職場作り」というテーマで、他の多機能型事業所で行っている活動についてや企業側から見た障害者雇用についての話を聴きました。

その中でも一番印象に残っているのが、「地域生活支援における介護と支援について」の中の、「高齢者の介護は維持的リハビリテーションであるが、知的障害者の支援は昨日と同じ、維持ではない」という言葉です。私はこの言葉に共感しました。昨日と同じではいけないということは、利用者も支援者も日々成長していくということではないでしょうか。ふなばし工房製袋班では、紙袋の作成を行っていて毎日同じ作業の繰り返しのように思えてしまいがちですが、私は支援者として利用者の成長を信じる気持ちを忘れずに関わっていきたく改めて感じました。

二日間の研修が終わり、学園に戻り利用者の顔を見たとき、ホッと安心して自分の気持ちに気がしました。この感情も研修に行っただけで味わえたのだと思います。研修に参加する機会を設けて下さったことに感謝して、学んだことを今後の支援に活かしていきたいと思っています。有難うございました。

みらい工芸館 大川 陽介

まだ、仕事にも慣れず、不安な6月に新任研修は九十九里で開催されました。

「福祉職員として接遇を学ぶ」では社会人としての必要な心得などを「自閉症特性の理解と行動障害への支援について」ではなぜこのような行動を取るのか、どのように接し、支援していくことがこれからの繋がるのかなど、研修というより大

フットベース



千葉県総合スポーツセンター軟式野球場を舞台にフットベースの決勝戦が始まりました。相手は「フットチームちば」。昨年も同様に決勝で対戦して敗れた相手でした。四月に入ってから毎週末この日勝つ為に練習してきました。結果は1対21。また負けた。たくさん練習したのにまだ練習量が足りない？ 職員の心配が悪いのか？ 考えていると、ふと浮かんでくる皆の開会式での凛々しい表情、勝った後の嬉しそうな顔、昼食中の笑顔、負けて悔しがる姿。「勝てば最高だけど、それが全てではない」事に気付いた瞬間でした。普段は別々の作業場で働く施設の仲間と力を合わせて戦える数少ない機会。大切にしたい一時です。(加瀬)

大久保学園一泊旅行

6月2日～3日、16日～17日に保護者の方と一緒に参加する一泊旅行へ行ってきました。初日は那須五峰館で昼食を取り、那須テディーベアミュージアムを見学しました。ジブリ映画でお馴染みの「となりのトトロ」の等身大のぬいぐるみに大興奮。その後は宿泊先の磐梯熱海温泉華の湯へ。温泉に入り長旅で疲れた体を癒してからは、皆さんお楽しみの大宴会。美味しい食事を召し上がりながら、美声を披露したり、ダンスを踊って会場を沸かせたりと大盛り上がりでした。

二日目はアクアマリンふくしまを見学しました。この日生まれたばかりのユーラシアカワウソに会う事が出来ました。その後は小名浜で海の幸を堪能して帰路へ着きました。



保護者の方と一緒にという事で、いつも以上に利用者の皆さんに皆さんの表情に笑顔が溢れている印象を受けました。(山田)

学の講義を思い出しました。専門的な大学を出ていない分焦る気持ちはありましたが、2日目の「先輩職員から学ぶ」で他施設の職員の先輩の新人時代の失敗の話や体験談を織り交ぜながら話してくださった内容が自分の努力次第で今後の成長は必ずできるということ。身近にいる先輩に追いつくという切磋琢磨することが利用者の方、家族の方、街全体を明るくできるということを熱く講義してくださいました。新任研修を終えて今思うことは、先輩をより観察し時間などを考えずに仕事に打ち込むこと、そういう直向きさをより持つてこの仕事を続けたいと思うようになりました。本当に研修を受けさせて頂きありがとうございました。

大久保学園 高山 弘子

研修会では様々なことを学びました。その中でも他施設の先輩が「新任時代に失敗をし、その失敗を乗り越えたから今の自分がある」と講演され、その言葉に大変励まされました。失敗を恐れず様々な支援を試み、利用者にとって一番良い支援ができる様になりたいと思いました。又、日頃から私が失敗した時に学園の先輩職員が時には厳しく、時には励ましながら教えて下さっていることを思い出し、感謝の気持ちでいっぱいになりました。先輩達のように人として支援員として力をつけ、いつか一流の支援員になりたいと決意できました。この決意を忘れず、それに見合った努力ができる様に頑張ります。



憶 記 通

サークルが始まり

大久保学園 近藤 桂太



私は大学生になるまで福祉に興味はありませんでした。大学も福祉とは関係ない学部に入り勉強をしていました。それまで福祉関係の事柄は人見知りで無口な自分には到底無理でできないと考えていました。しかし、大学生になってなんとなく勧誘されたボランティアサークルに入ることがきっかけでボランティアとして福祉にかかわることになりました。最初は、ために参加して向いていなかったらすぐサークルをやめようと思っていましたが、サークルの活動である身体障害者の方の介助や障害者施設でのレク、学童ボランティア等と行っていくうちにボランティア先で出会った人との交流を持つことが楽しくなり誰よりもサークルの活動に参加していました。大学を卒業してからも、交流関係は続いていて今は、年に1、2回はボランティアに参加しています。大学生時代にはサークル以外にも、ヘルパー2級の資格を取得し、ガイドヘルパーのアルバイトや学童のアルバイトを行っていました。大学3年の冬から就職活動が始まった時に、最初は福祉の仕事をしたとは思いませんでした。他に興味ある職種があり、一般企業の就職を考えていました自分が本当にしたことはなにか考えた時に福祉の仕事はどうだろうかと思うようになりました。また、就職活動を行っていく中で、一般企業の面接で行う自己アピールの中で、ボランティアで経験したことを話していくうちに、自分は福祉が好きであること、この経験を誇れることが出来ると感じました。それから福祉の仕事をする決断しました。その中でも、大学生時代に一番ふれあうことが多かった知的障害者の方の支援を行いたいと思い、大久保学園への就職を決めました。今年で入職して5年目が立ちます。大学生時代のボランティアやアルバイトで障害者の方と交流を築けた経験が大いに役に立ち、仕事に生かすことが出来ています。

さっちゃん

みらい工芸館 岩元 睦月



私のきっかけは、隣に住んでいたさっちゃんというお友達です。さっちゃんとは小・中学校が同じで家が隣だったということもあり、ほぼ毎日一緒に過ごしていました。高校進学を機にさっちゃんは引越してしまいお互い離れてしまいましたが、年賀状でのやり取りはありがたいことにいまだに続いています。さっちゃんはいま横浜で就職をし、御家族の皆さんと一緒に暮らしています。高校卒業後、通所型の施設にて就職を目指した訓練を行い20歳のときに就職が出来たと喜びのお手紙をくれました。大学生だった私は本当に嬉しく思ったのと同時に私もがんばろう、と励まされました。今思えば知り合った当時からさっちゃんには励まされ、助けられっぱなしでした。またどんな時でも自分より人を大切に思いやるなど私に出来ないことを当たり前のよう出来るさっちゃんをずっと尊敬していたのだと思います。福祉施設についてもまったく知らなかったので、このお手紙で初めて施設の存在を知り、興味を持つきっかけをくれました。現在はご縁があり今のお仕事をさせて頂いています。私は福祉についての知識がなく日々利用者の方にご迷惑をおかけしておりますが、さっちゃんと同じように就職を目指している方や自立した生活を目指している方と毎日作業を行い、同じ時間を過ごせることが嬉しく幸せです。これからも利用者の方から学ぶことや気づかされることがたくさんあると思います。私も伝えられるものがあれば伝えていきたいです。日々の生活や作業を通じて一緒に成長していければと思います。

それぞれの施設だより

大久保学園

大久保学園陶芸班「風の音工房」は、7月27日の土曜日、船橋駅前で開催された「ふなばし市民まつり」に出店しました。



「ふなばし市民まつり」には、市内のレストランや販売店、個人のフリーマーケットなどが出店しており、とても賑やかなお祭りです。

『風の音工房』は、数年前から、無地のお皿に専用のマークで絵付け体験が出来るというお店を毎年出店しています。

粘土からお皿を完成させるには乾燥・素焼き・本焼きと一つ一つの工程に時間がかかる為、新年度に入ってから皆でコツコツ準備をしてきました。

当日、日中は30度を超えた暑さの中、お子様を中心に約100名のお客様にお越し頂き、船橋全域で降った激しい夕立ちに見舞われる事もなく、大盛況のうちに終わる事ができました。

お祭りに来て下さった皆さん、本当にありがとうございました。(佐藤)

ふなばし工房

♪あんなこといいな できたらいいな あんな夢 こんな夢 いっぱいあるけど♪

世代によってぴんとくる方、こない方いらっしゃるかもしれませんが、そう、みなさんがご存知の「ドラえもん」です。この度、ふなばし工房食品加工班では、以前からお付き合ひのある㈱オーパスメディアから依頼を受け、新千歳空港旅客ターミナルビルにある世界初、空港併設型のドラえもん施設「わくわくスカイパーク」で7月10日から販売開始されたドラえもんクッキーを委託製造する事となりました。このクッキーはドラえもんの形をしているのみでは無く、クッキーを組み合わせて立体的にする事ができ、チョコレート等でデコレーションをしてオリジナルのデザインに仕上げる事も出来ます。お菓子を組み立てたり、飾ったり、目でみてカワイイ、食べてもおいしい、そんないろいろと楽しませてくれるクッキーです。まさに色々かなえてくれるドラえもんですね。

なかなかこのような大きな仕事に携わる事は出来ませんが、品質管理など大変な面もありますが、ふなばし工房のステップアップとして挑戦していきたいと思っています。そして、このお仕事を利用者さんのそれぞれの夢をかなえてくれると願っています。おねがい、ドラえもん！(武藤)



光風みどり園

日中活動をする中でのお楽しみを考えてみました。私達は、毎日たくさんのお作業を行いながら、また暑さ寒さでの厳しい環境の中日々の活動に追われています。それでも笑顔で過ごされている利用者の方々が良く話題にしているのが『給食のメニュー』です。水曜日のパン食とジュース、土曜日の麺や丼もの、七夕やお月見等の行事食、誕生日メニューやリクエスト献立。また、メニューの抱負さもさることながら、作りたての食事と味にも定評があります。

そして、これからの楽しみは『行事』だと思っています。夏の納涼祭、秋の泊旅行、冬の食事会と続いており、利用者さん達の話題と日々の活動へのモチベーションに繋がっています。これからも利用者さんや支援員皆と一緒に、毎日充実して過ごさず楽しみを見つけて、活気に満ちながら過ごしていきたいと思います。(清水)



地域生活支援センター



地域生活支援センターも引越越し、リニューアルして数カ月が過ぎました。今回は地域生活支援センターに新たに加わった大久保学園就業・生活支援センターの最近の話題を一つ紹介したいと思います。

8月8日に就業・生活支援センター主催の「地域意見交換会」を開催しました。「地域意見交換会」というのは、就業・生活支援センターの業務の一つとして、年に2回以上開催するもので、近隣の就業移行支援事業所、就業継続支援A型・B型の事業所の方に声をかけ、船橋地域の障害者の雇用をさらに推し進めていくための連携を強化する目的で実施します。今回は『虐待防止の観点からみた就業支援』というテーマで船橋市の障害福祉課、ハローワークの方をパネリストとして迎え、パネルディスカッションという形式で行いました。企業の方にもご参加いただき、障害者を受け入れる側の取り組みについても聞くことができ、大変興味深い会となりました。本人を中心にして送り出す側、受け入れる側が良いコミュニケーションをとることで、障害者への支援の質を向上し、結果として虐待を防ぐことができ、その為にも今後もしっかり連携をしていく必要性を再確認する事ができました。(柳原)

寄付金

平成二十五年四月一日
〜平成二十五年七月二十八日

〔後援会〕

堀内靖夫・大河原敏男・糸川 昇
矢下春男・初山敏雄・七海勝利
針谷喜美恵・林 宜男・渡邊 晃
野田 尚・陶山 勲・矢作 榮
吉内厚子・石川 清・矢口勇雄
金子澄子・萩原 誓・西原庸介
鈴木健三・関 ミヨ・大久保喜枝子
井上英子・坪内宣昭・豊田幸子
渋谷京子・清水宏晏・平山 実
白倉きよ・吉田房夫・大谷京司
小淵佳枝・其田鉄三郎
トーン観光(株)・平 敏行
井上正記・(株)伊賀谷・保坂敏子
篠崎春夫・山崎孝子・來栖 修
並木信子・(株)エイシンオート
佐瀬善浩・根本二夫・飯塚 昇
小嶋多美子・曾我米吉・大野充子
依知川一成・依知川節子
田辺誠司・石井冬子・北村一義
橋本憲一・協栄農資(株)・工藤文一
飯塚三郎・山路康一郎・齋藤 武
日下部敏和・栢野芳子・鶴沢正己
平野義直・山口泰男・平岡勝彦
岩間家具産業・鈴木葉子
藤城千エ・渡邊弘子・谷口貞雄

〔一般〕

ふなばし工房保護者会
野尻武生・平山正明・霊友会

(敬称略)

ありがとうございます

東葛中部地区総合開発事務組合立みどり園PFI事業

新たな一歩

山田 一心



稲穂が実り秋の景色に移り変わった九月、みどり園は第二期工事が順調に進み、A・Dの四つのユニットから成る新しい居住棟が完成しました。ユニット二十名の構成で、ユニット内部は少人数での生活に配慮し十名を基本とした設計で生活スペースが分けられています。通路や食堂、居間等の共用部は広々としており、天井のデザインと相まってゆたかりした空間となっています。

利用者の皆さんは九月十一日に引越えし、長年暮らした建物への愛着、新居への期待感など様々な想いを胸にユニットでの生活をスタートしました。私達支援員も「生活を将来につなぐ」という本事業の理念を改めて心に刻み、共に新たな一歩を踏み出しています。

行事予定

3施設全体行事

11/3 学園祭
11/6 スポーツの集い
12/3 芸能発表会
冬休み

大久保学園

12月 忘年会

ふなばし工房

10/22 明治神宮販売会
12月 忘年会
(7日、14日、21日、28日)

光風みどり園

10月 利用者一泊旅行
(6日〜7日、14日〜15日)
12月 忘年会

学園祭

今年度、大久保学園「学園祭」の実行委員長を務めます池田です。

今年も地域の方々を支えられ11月3日(日)大久保学園にて開催します。11月になる頃には肌寒くなる頃だと思われれます。焼き鳥や炊き込みご飯等の温かくて美味しい料理をご用意しております。また、利用者による演奏会の他、日本大学習志野高等学校のチアリーダーの皆さん、すいこ会龍星太鼓の皆さん、よさこいソーラン健舞人の会の皆さんによる



演出があります。是非是非ご来園下さい。職員利用者と一同お待ちしております。(池田)



今号の編集を担当しました和久です。朝晩肌寒くなり、朝のキンとした寒さが身も心も引き締めるように感じます。

さて、今号では「仲間」という言葉をテーマに特集を組んでみました。仲間がいると「助かる事」「気付き事」「楽しい事」「嬉しい事」等々、色々な事柄が起きます。1人では得られない事柄が大久保学園では毎日のように起こっています。

大きな事から些細な事まで少しでも多くの事柄をこのはばたきで伝えていきたいと思っています。(和久)



はばたき

二〇一三 七五号

発行/平成二十五年十月
発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二
FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL http://www.okubogakuen.or.jp
Mail shienke@okubogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会
表題書/大久保学園長 中原 強